

G 空間未来デザイン

川崎市宮前区

プレアイデアソン～地理空間情報に関するアプリケーション・サービス普及促進

日時：2014 年 8 月 29 日

会場：川崎市宮前区役所

参加者数：33 名（関係者含む）



「G 空間未来デザイン」プロジェクト（以下、「本プロジェクト」と表記）では、アイデアソンを開催する前に、その準備イベントとして「プレアイデアソン」を開催した。プレアイデアソンを開催した理由は、宮前区が持つ課題や、話し合うべきテーマを明確化し、そのテーマを深堀りするためにアイデアソンにどのような人を集めて、どのようなオープンデータを用意すればいいのかを明確にすることである。さらに、プレアイデアソンで明確化したテーマをもとにステークホルダーを想定し、それらの人々にどのように本プロジェクトを知ってもらい、参加してもらえるかというプロモーション活動を明確にすることも重要である。参加者は区役所職員をはじめ、地元の企業や NPO などの関係者が集まった。



イベントを開始するにあたって、最初に神武直彦氏（慶應義塾大学 准教授）が挨拶した。神武氏は、「今回のプロジェクトでは、地理空間情報を中心としたオープンデータをいかに活用し、地域に役立つようなサービスやアプリケーションを作っていくか、その仕組みを考えたいと思います。自治体だけでなく、関係するステークホルダーの方々、つまり市民や事業を行っている方々が集まって、アイデアを出してプロトタイプを作り、実際に役に立つところまでの仕組みを考えて検証するという事業です」とプロジェクトの意義を紹介した。さらに、今回のプロジェクトで最上位にあるのは、「宮前区にとって役に立つことをやりたい」という思いだが、それに加えて、「その成果を宮前区や川崎市だけでなく、日本全国に役立てたい」という思いもあると説明した。

続いて、野村氏によるファシリテーションが開始された。野村氏はまず、今回のプロジェクトの全体の流れを説明した。プレアイデアソンを開催した理由や、その後のアイデアソン、ハッカソンへと続いていくことを紹介した上で、本プロジェクトではさらに「マーケソン（マーケティング+マラソンの造語）」が開催されることについても触れた。マーケソンはハッカソンで開発したアプリケーションを普及させていくために、どのような取り組みをすればいいのかを考えるかというイベントで、本プロジェクトを締めくくる最後のイベントとして位置付けられている。

さらに、今後は地理空間情報を使ったプレアイデアソン・アイデアソン・ハッカソン・マーケソンという仕組みを、全国各地で展開していこうと考えており、宮前区以外の他の地域にも役立てられるような枠組みを作ることが本プロジェクトの目的であると説明した上で、宮前区の課題として、以下のような例を挙げた。

- ・宮前区は坂が多い街であり、高齢者は坂を登るのが大変である。「超高齢化社会に創造的に立ち向かう」というのが全体のテーマになる。
- ・地域の中にいる人、外にいる人にかかわらず、誰にとっても活躍する場がある街を作るのが超高齢化

社会に向かう中で大事なことである。そのためにも、地域作りをする上で、どこにどんな資源があるのか、誰がどこに住んでいるのか、誰がどんな興味を持っているのか、といった色々なリソースが可視化されることで、お互いがもっと参加できるようになる。

- ・都市型農業というスタイルで作物を作る人、それを売る人や料理する人などでエコシステムを作ることが大切。
- ・地域の人が集う遊び場を作り、それを可視化するのが有効。また、家を住み開きする、つまり高齢者の家庭の大きい土地に住んでいる人が、1階を遊び場として開いていくというような話について、そのような話がどこにあるのかを可視化するという手もある。さらに、高齢者がそこで仕事をするというケースもあるかもしれない。

このような例を出した上で話し合い、そこで提示された課題を共有して、テーマを明確にして市民に呼びかけていくとともに、ステークホルダーに向けて本プロジェクトの活動を知ってもらい、参加してもらうためのプロモーション活動も明確にする。これがプレアイデアソンの意義であると野村氏は語った。

最後に野村氏は、今回のグランドルールとして以下の5点を挙げてこのセッションを終了した。

1. 一人ひとりの「想い」を大切にする。
2. お互いの違いや多様性から学び、アイデアを生み出す源泉とする。
3. 参加者全員で発言機会を提供しあい、良い関係性を作り上げる。
4. いつもの主張をただ話すのではなく、その場で感じたことを大切にする。
5. 今日この場で一緒になった縁を大切に、アクションを支援しあう。



■インスピレーショントーク [9時45分～10時15分]

アイデアを出す前段階として、まずは参加者に情報をインプットするため、4名による簡単なスピーチが行われた。

(1) スピーカー：神武直彦（慶應義塾大学 准教授）



『宇宙システム全体を使って世界を良くしたい』という思いがあり、今はアジア太平洋を中心とした仕事も多いが、そのような場で大事になるのは市民であり、行政や事業主たちと会って、どうしたらいいかのかをきちんと把握するのが大切だと思っている。今回も、まずは参加者と仲良くなるのが第一だと考えており、本プロジェクトが日本全体に波及するようなことも視野に入れつつ、宮前区のためにもなるという“2 兎を追う”ことを目指して、みなさんと一緒に前に向かっていきたい。

(2) スピーカー：妹尾昌俊（国土交通省 国土情報課）



最近では中高年の登山客が多くて、中にはサンダルで来ているような人もいますが、遭難を防止するために位置情報も活用することも大切である。自分が所属する科では、このような地理空間情報、つまり位置情報や地図に落とせる情報を、遭難対策や公益性の高い分野にも使うための研究を行っている。今回のプロジェクトも、みなさんのアイデアを出していただいて、「位置情報はこんな風に使えるのではないか」ということを考えていきたいと思っている。地理空間情報やオープンデータは手段やツールだと考

えており、それを行うこと自体が目的ではなくて、「それによってどうやって地域を元気にしていくか」を考えて、多くの人がハッピーになるようにしていく必要がある。個人的な意見を言いづらい立場の方も多いかもしれないが、この場はぜひ忌憚なく色々と、気楽に真面目な話ができる場にしていきたい。

(3) スピーカー：小山貴志（宮前区役所 まちづくり推進部 企画課）



川崎市には 7 区あるが、宮前区は其中でも新しい区で、1982 年に高津区から分区して宮前区となつてから 30 年ほど経つ。区域は多摩丘陵の一角に位置しており、とても坂道が多いのが特長である。また、川も多く、自然環境にも恵まれている。人口は分区時は 15 万人で、徐々に増えて現在は 22 万人を超える規模になっている。

宮前区の課題は、まず高齢化が進んでいることが挙げられる。現状の高齢化率は 18%で、高齢者の単身世帯が増えており、孤独死の問題や閉じこもりなどの問題も出てきている。そのため、高齢者の居場所作りや、そういった方を見守る体制づくりが重要になってきている。

一方、宮前区は元気な高齢者が多い地域でもあり、平成 22 年度に厚労省が発表した市区町村別平均寿命のデータを見ると、宮前区は男性高齢者の平均寿命が全国で 2 番目に長いという結果になった。また、平成 24 年度のデータによると、要支援・要介護の認定を受けている高齢者の割合がとても低く、元気で長生きの高齢者が多いのが特長と言える。このような長所を活かしながら、今後さらにそれを伸ばしていくために、住民に対して健康作りの意識付けが必要と考えている。

さらに、宮前区は川崎市の中でも年少人口（0 歳～14 歳）が多い区で、7 区の中で年少人口が最も多い。そのような状況の中、今後は核家族化の進行などにより子育ての不安や孤立感を抱えている世帯もあり、そのような人が安心して子育てできる環境作り、場作り、情報発信などが課題となる。

3 つ目は、街作りのハード面での課題が挙げられる。公共施設は宮前平に集中しており、商業施設は鷺沼に集まっているので、バス路線が充実してはいるものの、拠点が分散しているのが課題となっている。

4 点目は、宮前区に住んでいる方の中には東京都や横浜市に通勤・通学している人が多く、昼夜間人口比率が市内で最も低いので、地域への意識が薄くなりがちであること。もちろん熱心に地域活動されている地域の方もいるが、そのようなことを踏まえて今後どんな取り組みをしていけばいいのかが課題と

言える。取り組みのひとつとしては、今、地域に接点を持たない方に地域のことを知ってもらい、好きになってもらうことが挙げられる。その上で、地域の活動に参加してもらうきっかけ作りや、担い手になってもらうための制度作りを進めた上で、育った人材を地域の活動に結びつけてネットワーク化していくことで地域コミュニティの活性化を図っていく。そうすることで地域の課題を解決する基盤づくりを進めていこうと考えている。

(4) スピーカー：新井信宏（川崎市 ICT 推進課）



オープンデータの取り組みというのは奥が深く、行政が保有するデータを二次利用が可能な形で公開していきましょうというのが本来の狙いだが、ただ公開するだけではなにも進んでいかないわけで、その活用法も含めて検討していく必要がある。

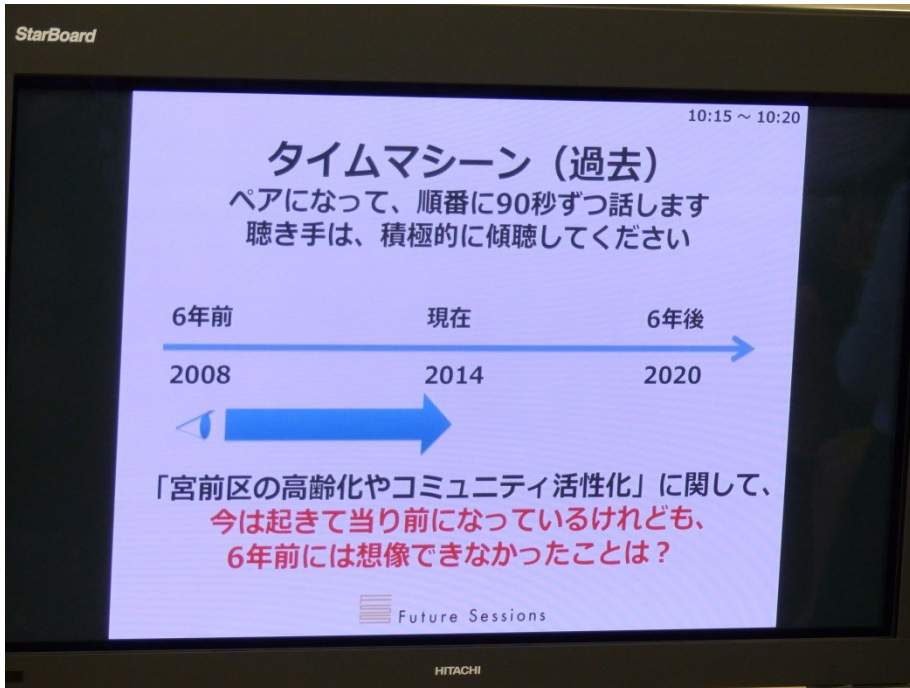
利活用にあたっては、色々な部門からさまざまな人が集まり、課題を共有して解決していく上で人と人とのつながりが生まれてくるもので、今回のプロジェクトは宮前区にお願いしているが、実は別件も進めており、計3つのオープンデータの取り組みを走らせている。

このような取り組みを行う中で、イベントを開催し、そこでのつながりも生まれて、また別の機会につながるケースも多い。これだけでは終わらせないで、民間企業や団体、市民の方に協力していただくことで課題を解決するという取り組みを続けていきたいと思っているので、ぜひこの案件を成功させて、川崎市の中の宮前区を全国に紹介したいと考えている。

■アイデア出しが開始

インスピレーショントークのあとは、参加者が1人ずつ自己紹介し、所属や名前、一言コメントなどを述べた。その後、アイデア出しが本格的にスタートした。

(1) タイムマシーン【10時15分～10時20分】



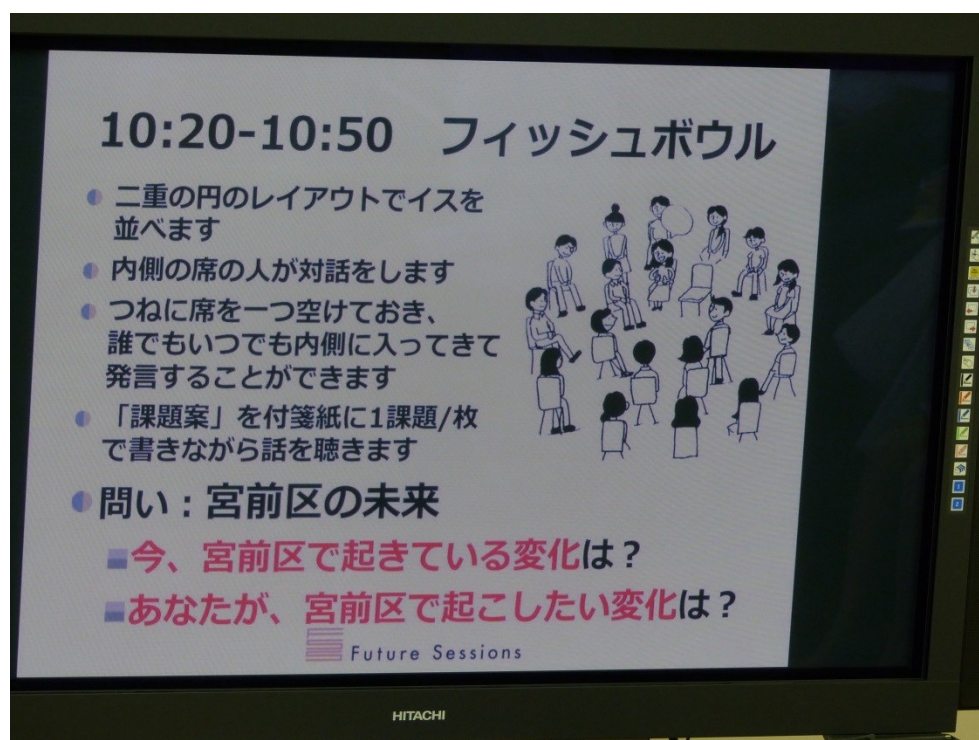
参加者がペアを組んで順番に90秒ずつ話すセッションで、聴き手は積極的に傾聴するのがルール。ペアを組むにあたっては、宮前区役所の職員とそうでない人がペアになる。ペアのうち、左側の人が先に話し始める。90秒間話し、もう片方の人が聞き手となって、もし話が詰まっているようだったら途中で質問してあげる。

1回目は宮前区の高齢化問題やコミュニティ活性化などの課題について、「今は起きて当たり前になっているけれども、6年前（2008年）には想像できなかったこと」を順番に90秒間ずつ話した。ここでは、「祖母が坂の上にある施設に通っていて、坂の上は老人にとって不得手というイメージがあるが、施設として見た場合は、意外と見晴らしがよく気持ちのいい場所であると思った」などの意見が出た。



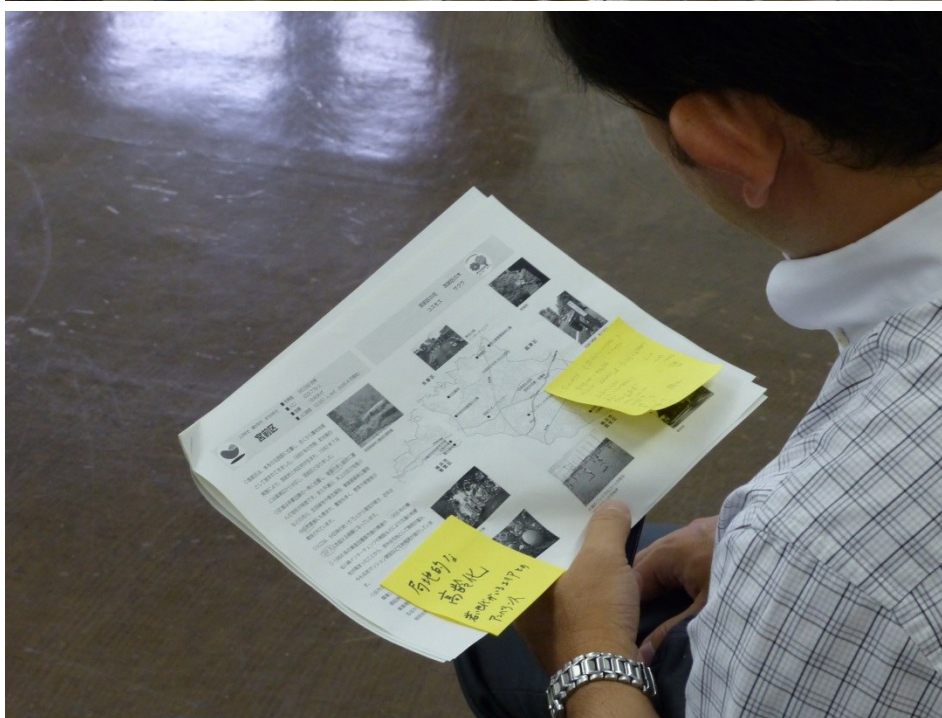
2回目のテーマは「6年後から今を振り返る」。「宮前区の高齢化やコミュニティ活性化」について、「6年後に実現していることはなにか」ということを想像し、過去形で自慢話風に90秒間ずつ話した。ここでは、「宮前区は坂が多く、若いときは『見晴らしがいい』と思うが、歳を取るとやはり苦痛になってくる。6年後にはコミュニティの交通手段が普及していて、そのため住みやすくなった」「今は男性の平均寿命が全国2位だが、今後6年間で色々調べたところ、あれもこれも全国1位だということがわかってしまった。それで全国から注目されるようになった」といった内容が話された。

■フィッシュボウル【10時20分～10時50分】



円形を二重にしたレイアウトで椅子をを並べて、内側の席の人が対話をするセッション。常に席を 1 つ空けておいて、そこに誰でもいつでも内側に入ってきて発言できる。誰か 1 人が入ってきたら誰か 1 人が抜ける。「自分はもう十分に話したな」と思ったら自発的に抜ける。参加者全員、会話の中で出た「議題案」を付箋紙に 1 課題／枚で書きながら話を聴く。ここでのテーマは「宮前区の未来」で、「今、宮前区で起きている変化」「あなたが、宮前区で起こしたい変化」について話した。





[出された意見]

- ・ 市民サービスの向上について注目している。「節電しているため庁舎が暑い」「庁舎の中の構造がわかりにくい」など。
- ・ 今までは行政主体というところもあったが、市民の声を聞いて、それに対してアクションを起こそうという姿勢は感じられる。

・課題としては、ハード面での使い勝手の問題もあるし、組織的な問題もある。やれるところからやっているという感じ。

・住民からは、「このまま行くと大変なことになるのではないか」という意見がある。今年の冬に雪が降ったとき、坂が多いので家から出られなくなった人が見られた。ちょうどそのときに子どものイベントがあったが、子どもたちでさえ歩くのが厳しそうだった。ましてや高齢者では雪の中で買い物に行くことなどできない。町会長さんなどに話を聞くと、「このままあと 10 年経つと、誰も街に出てこなくて大変なことになる。今でさえ、昼間はほとんど人が見られない。人がいないのではなく出てこない」ということを真顔で心配していた。これからは「成長」ではなく「成熟」を目指していかなければいけない。高齢化問題や町並みなど、色々な面で今は過渡期を迎えている。すでに東京や横浜ではそのような取り組みを始めていて、川崎としてもそれを参考にして、大きな関心を寄せている。

・町内会で 60 歳というとまだまだヒョッコ。80 歳に近い人が仕切っているのも、もし私が退職してこれから町内会に入ったとしても「雑巾がけ」から始めることになる。一方で、働く世代は雇用形態などの問題で、土日にいない人も多く、祭りになっても神輿の担ぎ手がいないような状況で、世代交代する必要はあるものの、次の人たちにバトンタッチしにくい状況になっている。若い世代がとくにその傾向が強く、ボーイスカウトやガールスカウトに参加していても、大学を卒業すると来なくなってしまう。「就職」というのが一番ハードルが高くて、これを過ぎると転勤などで他の地域を点々とする事になり、地域になかなか戻れなくなる。というわけで、町内会などが回しづらくなっていて、70 代や 80 代が現役で頑張ることになる。

・非正規で働いている人が増えていることも原因のひとつで、そういう人はなかなかいつかない。来月再来月の仕事を心配している人は、町内会の仕事は手伝わない。

・区役所に来てみて「地域で熱心に活動している市民や団体は意外と多い」と感じた。一方で、良い活動をしている人がたくさんいて、似たような課題意識を持っている人もいるが、お互いがお互いのことを知らないというケースも多い。これらをうまく連携させることが課題だと思う。

・60 歳を超えて地域のためになにかをしたいが、なにをしていいのかわからない人もいるのもったいない。活躍の場を行政は用意する必要がある。

・宮前区は景観はいいが、観光という面で「これだ」というスポットが宮前区には少ない。ただ、坂に名前を付けてそれを巡る、というような企画などはこれまでにやったことがある。

・ウォーキングマップを作るというアイデアもある。たとえば宮前区は、春は桜が色々なところで咲いているので、それをつなげて歩くこともできる。住民は桜のきれいなスポットを大体知っているのも、そのような情報を地図上で可視化すると面白いと思う。

・自分は宮前区の中でも町内会がしっかりしていて、昔から住んでいる人が結束しているところに住んでいる。ふつうは神社を中心に祭りなどがあるが、宮前区は神社などがあまりないので、町内会で盛り上げているという面もあるが、一方でマンションも多く、そこに住む人たちが町内会に入っていないという課題がある。そのような人たちに気軽に宮前区の魅力を紹介することが必要だ。鷺沼の桜などは、町内会が店を出して、公園から離れたところや、駅から行く人も楽しめるので、そのような催しの情報も発信すると、ほかの地域からの訪問客も増えると思う。

・宮前区のブルーベリー農園で、500 円玉大のブルーベリーのほか、色々な新品種を作っているところがあって、特売所なども作っている。このような農家を応援するようなアイデアがあるといいと思う。

・「いつも通る散歩道に咲いている花がきれい」といった情報は、知っているけれども自分の宝物として大事にしている。それをほかの人たちが見えるような形にするといいと思う。たとえばスーパーの屋上が緑化されていても、上から見ないと気が付かない。そのことを共有できると散歩の理由付けになる。たとえば「川崎市指定の木」などがもう少しあってもいいと思う。また、今は電子地図上で移動距離を簡単に図ることも可能なので、そのようなことを活用してもいい。

・宮前区にいる人たちが、引っ越してきた人たち向けにガイドブックを発行していて、そのウェブ版の掲示板で市民の方たちが区内を紹介するという取り組みがある。このような取り組みをもっと増やしていけたらと思う。

・市民から「坂の途中で椅子があったらいい」「休憩できるところが欲しい」という意見があった。椅子などは1つではなく複数あると、市民同士でコミュニケーションができていい。

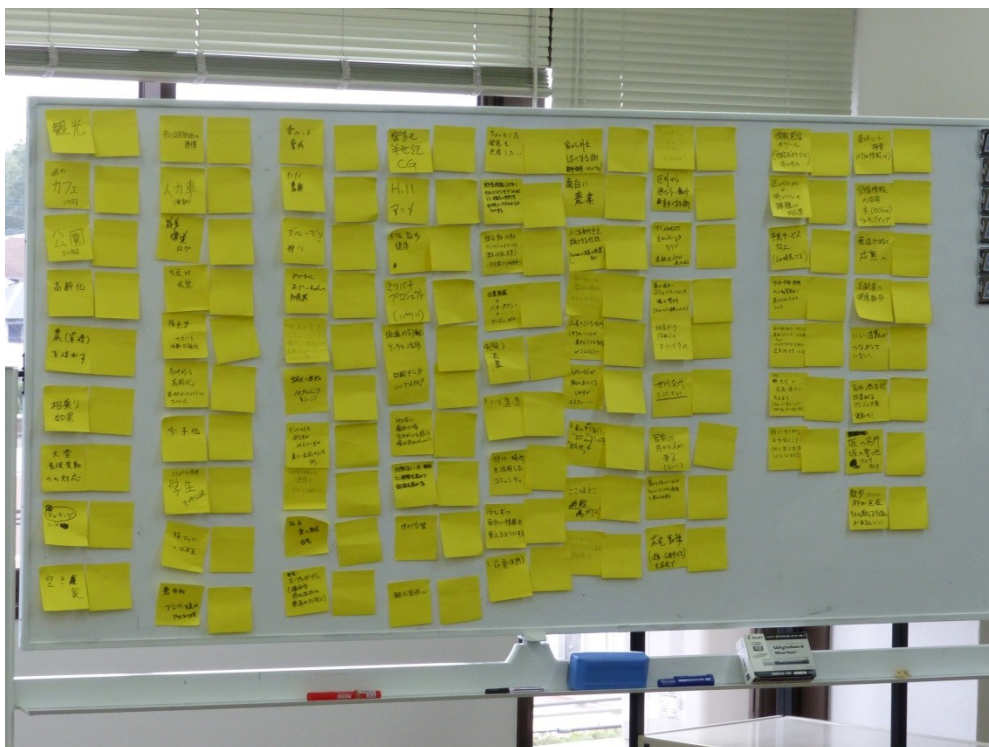
・「地元の人は知っているが、ほかの人は知らない」という情報が多い。たとえばある施設の跡があって、そこが昔は何に使われていたのかという情報を、知っている人が教えられるような仕組みがほしい。そういうものをどうやって手軽に出せるのか、オープンデータというのはそういうものが集まったものではないか。

・坂道の勾配データをオープンデータ化して出してもらえると助かる。電子地図を見ていてそのような情報がわかると便利だと思う。

・武蔵小杉周辺に住んでいても、渋谷に出てしまう人が多く、南武線を北に向かうという発想がない。「南武線の北に向かう」という発想があってもいい。そのために農家に行って農業体験するとか、そのような人の呼び方を、オープンデータを使ってできないか。

■ ドット投票【10時50分～11時】

「タイムマシーン」や「フィッシュボウル」を踏まえた上で、全員が付箋紙に議題案を書き、ホワイトボードに貼り付けていく。貼り終えてから、アイデアソンやハッカソンで探求したいテーマとしてふさわしいと思うように1人5票、投票を行った。







■テーマ名決定【11 時～11 時 10 分】

ドット投票の上位 5 つを整理して、これらの議題を中心に据えたときの、宮前区での G-ハッカソン全体のテーマ名を考えるセッション。ここでは、「テーマ名」の案を 1 つ 1 つ付箋に書いていった。



◇決定したテーマ

◎ちょっとした発見・共有

- ・家から外出したくなる街
- ・桜ウォーキングマップ

◎楽ルート案内

- ・坂道データのオープンデータ化
- ・坂道の勾配データ活用

◎道の途中にコミュニケーションの場

- ・休憩場所を活用したコミュニティ

◎農（資源）を活かす

- ・面白い農業
- ・他市区からの人の呼び込み

◎他世代が交流連携

- ・デジタルおじいちゃんの知恵袋
- ・空き家
- ・在宅勤務
- ・避難場所

■クイックプロトタイプング【11 時 10 分～11 時 35 分】

決定した 5 つのテーマごとに分かれてグループを作り、テーブルごとに以下の 3 つ組を作成した。さらに、1 枚の大きな模造紙に、課題に関することを自由に書き込んでいった。書き込む内容は以下の 3 点。

- (1) テーマ：課題をより明確に、解決したい！と思えるようビビッドに描写する。
- (2) ステークホルダー：どんな人がこの課題達成に必要なか、その誘い方も考える。
- (3) オープンデータ：どんなデータがこの課題達成に必要なかを想定してみる。





＜テーマごとに代表者が発表＞



◎農（資源）を活かす

(1) テーマ

農体験の情報や、地元の農作物をどこで買えるかという情報を提供する。また、安心・安全な食べ方やレシピの紹介、給食の情報なども扱う。

(2) ステークホルダー

レストラン、学校、主婦、旅行会社、リタイアした人、農家／農協、自宅で農作物を作っている人、植物工場

(3) オープンデータ

生産者／生産物／生産量、販売している場所、流通ルート／流通データ、空き地情報、給食の献立

◎ちょっとした発見・共有

(1) テーマ

「歩きたくなる街」を大きなテーマとして、街中の「ちょっとした発見」を共有する。例としては、「鉛筆削りの芯日本シェア 100%」「210 カ所の公園」「クリスマスイルミネーション」「変な木」など

(2) ステークホルダー

川崎マイスター、農家、中学／高校の写真部、街の写真クラブ、公園緑地協会／道路公園セクタ

(3) オープンデータ

街の写真、公園などの位置情報

◎楽ルート案内

(1) テーマ

高齢者の外出支援情報などを提供。道の勾配情報などを集めてルートを案内する。どこか行きたいところがある場合に、条件設定（「友だちと行く」「車椅子で行く」など）をしてそこに行く場合に歩きだけではなく、公共交通やタクシーを使ったルート案内を行えるようにする。「楽」だけでなく、逆に体力を付けたい場合にハードなルートを選ぶこともできる。ルートが決まったところで人の流れができるので、その情報を使って出店の促進を行えるし、ルート上の店には広告主にもなってもらえる。

(2) ステークホルダー

高齢者、老人会、介護施設、交通事業者、小売店／飲食店

(3) オープンデータ

道の勾配、交通ダイヤ／ルート、タクシーの流しの情報（つかまえやすいポイント）

◎道の途中にコミュニケーションの場（坂コミュニティ）

(1) テーマ

坂を避けて通るのか、あえて健康のために使うか、選択ができる情報を提供する。坂を楽しむために坂の名前を公募する。

(2) ステークホルダー

運動／健康に興味ある人、コンビニ、商店、ベビーカーを使う主婦、高齢者

(3) オープンデータ

坂にギャラリーを作って昔の写真を展示、市民からの情報提供ということで、前日に降った雪の風景の写真を公開、カロリー消費量（坂と階段の違い）、休める場所（ベンチなど）の位置情報

◎他世代が交流連携

(1) テーマ

学び、知的欲求を通じた他世代交流（遊び／学び、子育て／自治体情報）、川崎市最古の遺跡の活用・伝承（アニメなどで発信）、住みかえ促進（空き家活用）

(2) ステークホルダー

行政、子育て関係（ボランティア団体、小中高）、市民活動、外国人、障害者、宮前区を好きな人

(3) オープンデータ

空き家情報、交流できる場所、遺跡／歴史、生涯学習の情報、人口データ、人の動き、イベント情報、遊び方の手順、学校情報／時間割情報

<まとめ>

スピーカー：野村恭彦



野村氏は締めくくりとして、「今回は5つの大きなテーマが生まれたが、全体の中で重複している部分もあるので、アイデアソンに向けて1つ1つを事務局チームで具体化すると同時に、アイデアソンでテーマをどんな風に見せていくかということについて、もう1回考えたい」と語った。さらに、参加者に対して、アイデアソンに向けてステークホルダーに声がけするよう協力を呼びかけた。